西東京市無認可幼児施設・幼児園 どんぐりころころ

どんぐりころころだより 26-3号

平成26年8月7日発行 福島恭子・大森志穂

26-3号では、「1学期のまとめ」をしたいと思います。3歳児クラスの教育内容のまとめとします。

毎日、外の自然の中を歩き、遊ぶことを通して、どんな経験をしたでしょうか、身についたことはどんなことでしょう…。畑では、どのような経験をしたのか等々、まとめてみましょう。

様々な草花、小動物と出会い、何度も同じものを見て、触れて、そのものを知り、自分なりに想像をめぐらせて考えて…

4月以降、出会った草花、4月32種、5月42種、6月44種、7月24種。各月にだぶっている草花も少なくありませんが、こんなにたくさんの草花と出会ったのだなあと、改めて数字で確認すると、驚きます。

子どもたちは、一度見ておしまいではなく、繰り返し見たり、触れたりしますので、草花が変化していく様子も知っています。草花の名前を保育者は知っていますが、一つ一つについて教え、解説することはしていません。子どもが見て、感じたままに命名することもありますし、名前を知っているものもあります。子どもたちと一緒に草花を見たり触れたりする中で、正しい名前が話題になることもありました。子どもたちは、見たり、拾ったり、取ったり、分解したりして遊ぶことで、一つ一つの草花について、自分なりに知っていくので、そのことを大切にしています。3歳児は4人いるので、4通りの見方、知り方があり、互いにそれを共有するので、一つ一つの草花についての見方、知り方が広がりました。

例えば、5月のツツジ。まず目にしたのはつぼみ。とんがった形に目が向いたHちゃん。つぼみだなんて知らずに子どもたちは、「Hちゃんの好きなの」と言って見たり、つついたりしていました。

それが!そのうち、ピンクに色付き、「Hちゃんの好きなの」が「ピンクのお花」に変身。しかも、一面ピンクになったので、お花というより「ピンク」と呼ばれるようになりました。落ちている「ピンク」を拾ってみたり、ピンクの花にハチが入りこむ様子を見て、「ハチミツを集めているのだ」という話になりました。それは「くまのプーさんのハチミツ」だという話にまで発展。

そして、数週間後には、すっかりピンクがなくなって、「茶色」になってしまったツツジ。Twちゃんは「枯れたんですよ。」と言い、Kちゃんは、「お花の季節がなくなった!って言うんだよ。」と言いました。THちゃんは、すっかり枯れたツツジの前を通る毎に、「お花の季節がなくなっちゃったね。」と話すようになりました。そう言えば、THちゃんは、ツツジの花の色をピンクではなく、「紫」と言っていました。ピンクに見えるし、紫にも見える、どちらか一つに決める必要はありませんよね。

枯れてからもおしべやめしべを見て、「おひげだ~」と見立てたり、触ってカリカリしていることを確めたりして楽しみました。

出会った一つ一つの草花と丁寧に関わりました。

カラスノエンドウや椿の花びら等、ブログでお伝えしたものもありますね。科学的な経験をしていますよね。

小動物については、4月8種、5月6種、6月9種、7月12種でした。(鳥を加えると、10程増えます。)

小動物も草花と同じように、繰り返し見て、そのうちに捕えられるようになったのがダンゴムシ。積極的に捕えていたTwちゃんが刺激になったようで、次々、捕えられるようになりました。同じダンゴムシでも大小様々だったり、背中の色が違ったりします。見たり捕えたりする中で、「真っ黒な背中は男の子」「黄色い模様のある背中は女の子」という話もしたりしました。丸っこいダンゴムシは親しみやすいようで、ダンゴムシにじっくり関わったためか、他の虫に対しても、よく見る、触ってみるという観察力が身についたように思います。